

第2回 基礎学力向上部会

8月20日（水）、富山県総合教育センター 科学情報部 学力向上推進チームの國永紀子先生を講師にお迎えし、「第2回基礎学力向上部会」を開催しました。市内小中学校から、教務主任および研究主任が参加し、全国学力・学習状況調査の結果をもとに、本市の児童生徒の傾向を把握し、つまずきを解消するための方策を検討しました。

当日は時間の都合上、主に課題とその解消に向けた方策に焦点を当ててご講話いただきました。以下に、その内容の一部をご紹介します。

国語科においては、複数の資料を読み解く問題につまずきが見られました。児童生徒が文章を最初から最後まで一字一句読もうとしている可能性があるとして分析され、読む際には「繰り返し出てくる語句を丸で囲み意識する」「第一段落に主旨があると予想して読む」など、これまで学習した読み方が生かされる授業の必要性について、ご示唆いただきました。

算数・数学では、「単位分数」に関する問題を例に、本市の児童生徒に見られるつまずきについてご説明いただきました。例えば「0から1を何等分しているか」に着目すれば $1/3$ と正答できる問題において、「 $1/6$ 」や「小数」で解答してしまうケースがあることから、すでに学んだ内容は理解している前提で授業を進められていないか再確認する必要性を言及いただきました。既習事項を丁寧に振り返ることの大切さを再確認する機会となりました。

理科では、知識の整理につまずきがあることを示されました。中学校の「生物と細胞」「植物」「動物」に関する学習を例に、断片的な理解に留まってしまった場合があると分析いただきました。学習してきた知識を整理・統合する時間の確保の大切さについて、ご助言いただきました。

研修会の後半は、教務主任・研究主任がペアになり、自校の児童生徒の成果課題を整理し、つまずきに対する方策について話し合いました。

今度も、児童生徒の実態を踏まえた授業改善に努め、滑川市全体で基礎学力の向上を目指してまいります。



【指導講話】



【ペア】

受講者の感想

全国学調の結果をしっかりと分析して、授業改善につなげていく大切さを改めて考えさせられました。
全国学調の分析を丁寧にしていただき、分かりやすかったです。
教科関係なく大切なことを教えていただきましたので、夏休み中に分析と今日教えていただいたことを教員で共有して2学期を始めたいと思います。来年度以降可能であれば、問題を事前に教えてくださると、その時間も講師の先生のお話を聞くことができるなと感じました。本日はありがとうございました。
見通しをもつ話し合いや、普段行っている活動や身に付けた技能を、テストでも発揮できるようにしていくことが大切であると感じました。読み解く力の育成や、本校の研究課題ともつなげながら、2学期どんなことができるのかを考えていきたいです。
生徒自身にとって解決する価値のある課題を設定することが大切であると実感できました。「課題のみられた問題」の誤答分析は必要なことですが、授業の中での学習において、生徒のつまずきを見逃さず、支援を継続していきたいです。
全国学調の結果を考察することは重要だが、分母が250ほどの場合、統計学上、何ポイントの差異から「データとして明らかに価値ある違い」と言えるのかが知りたいです。数ポイント低いことに対して、議論を深めそれ用の対策を練ることに価値はあるのか、数ポイント高いことに、優位性を信じていいのか。アカデミックに分析してみたいです。（統計学的な知識がないので、申し訳ないです。）
今後の研修や授業の進め方についてヒントをいただきました。学校に持ち帰り、共有したいと思います。ありがとうございました。
研究主任・教務主任で学力向上に向けた取組を、全国学力・学習状況調査の結果から考えるよい時間となりました。正答率が低かったところを中心に考えることで、本校ではどのような方策ができるのか深く考えました。
自分たちの授業の仕方に何が足りないのか、どんなことをすればもっと子供たちに力を付けることができるのかを考えるよいきっかけとなりました。研究主任ともよく話し合っ、連携を取ることができました。
子供に身に付けさせたい力を明らかにしつつ学習への興味関心が高まるような授業改善や工夫をしたいと改めて感じました。
学力調査の結果をもとに分析されたデータを基に、子供の躓きを分かりやすく教えていただきました。学力調査の問題を活用した授業を行ってみたいと思いました。せっかく各校の教務主任と研究主任が集まった研修だったので、ワークショップ型の研修だと今後の授業改善につながるヒントを見付けることができるかもしれないと思いました。
結果を基に分析され、問題点について分かりやすい説明を聞けました。ありがとうございました。それを受けて記します。参加者全体で授業をどうするのか、どんな授業をしていけばよいかという具体例を出し合い、様々な例を共有する時間にしたかったです。例えば、学力調査の問題を基に、どのように授業をするか、その場で実際にやってみる演習形式の研修です。参加者からも提案していくような双方向性がある研修会だと、大いに学びがあるはずです。ご一考いただけると幸いです。